

病害虫発生予察注意報第 3 号

病害虫名：アメリカシロヒトリ

1 発生予想 第二世代幼虫が多発（8 月下旬～9 月上旬頃）する恐れがある。

2 対象地域 県下全域

3 根拠

病害虫防除所のアメリカシロヒトリ雄成虫の誘殺消長調査では、8 月 4 日の誘殺数は平年より著しく多い（表 1、2・図 1）。本年は 6 月～7 月の第一世代幼虫の発生及び被害が多く、各地でリンゴ、アンズ、カキ、クルミ、サヤインゲン等農作物への被害が確認されている。



クルミの被害状況（7 月）



カキの被害状況（7 月）

表 1 アメリカシロヒトリ誘殺消長（須坂市小河原 農業試験場内）

年	5/19	5/26	6/2	6/9	6/16	6/23	6/30	7/7	7/14	7/21	7/28	8/4	8/11	8/18	8/25
2011	7	24	4	25	9	2	1	0	0	2	17	66			
2010	1	2	3	1	2	0	0	0	0	0	17	14	2	2	0
2009	5	13	7	1	0	0	0	0	0	8	7	10	5	4	1
平年	5.4	8.3	5.6	3.5	1.2	0.4	0.1	0.0	0.8	4.8	15.6	13.2	5.1	1.1	0.2

平年値は過去 10 年の平均。

表 2 アメリカシロヒトリ誘殺消長（塩尻市宗賀 野菜花き試験場内）

年	5/19	5/26	6/2	6/9	6/16	6/23	6/30	7/7	7/14	7/21	7/28	8/4	8/11	8/18	8/25
2011	8	40	34	85	53	11	2	1	0	1	36	183			
2010	0	12	3	4	5	0	0	0	0	0	6	22	41	26	2
2009	13	29	19	12	1	1	0	0	0	0	16	32	36	23	1
平年	6.3	10.1	7.8	6.8	2.3	0.4	0.3	0.1	0.0	2.4	11.0	37.3	20.1	8.9	1.0

平年値は過去 8 年の平均。

4 防除対策と留意点

(1) 8 月 4 日調査の誘殺数は、平年の誘殺数のピーク（8 月上旬）より数倍多くなっていることから、例年被害が大きくなる第二世代幼虫の徹底防除を図る必要がある。

(2) 若齢幼虫期の防除

雌は交尾後産卵し、およそ 7 日～10 日後にふ化が始まる。ふ化後 10 日～12 日の間は糸を吐いて巣をつくりその中で過ごすので、見つけ次第被害枝を巣ごと切り取り焼却等により処分する。ふ化後、日数を経過すると幼虫が巣から脱出し、分散して被害が拡大するのでその前に対策をする。

(3) 老齢幼虫期の防除

巣から分散したあとは薬剤散布等で防除するが、農薬取締法を遵守し、適用登録のある農薬を使用するほか、周辺環境等に配慮し、危被害防止のため薬剤の選択、散布、時間等に注意する。(公園・街路樹等病害虫・雑草管理マニュアル：環境省ホームページ http://www.env.go.jp/water/dojo/noyaku/hisan_risk/manual1_kanri.html 参照)

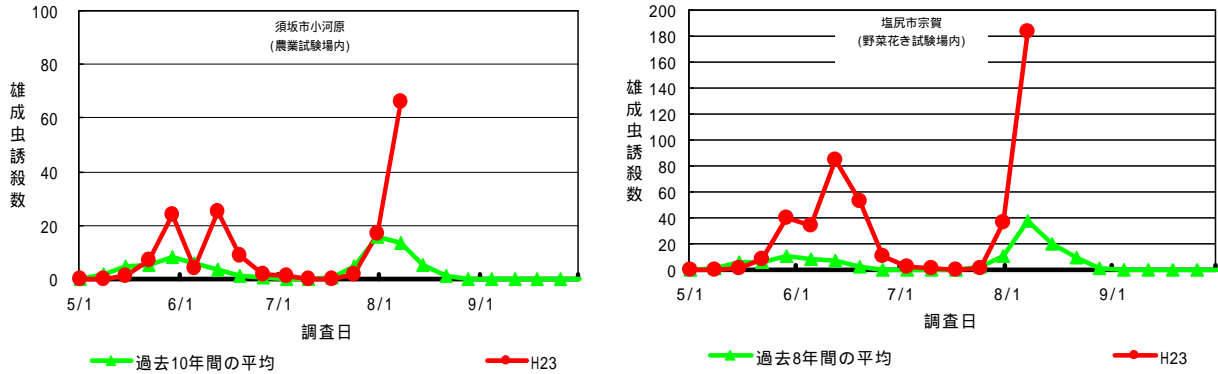


図1：フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数

表3 (参考) アメリカシロヒトリに対する主な防除薬剤と使用基準

薬剤名	成分名	希釈倍率	使用時期	使用回数	登録作物
スミチオン乳剤	MEP	1000倍	収穫30日前まで	3回以内	りんご
			収穫14日前まで	6回以内	なし(有袋)
			収穫21日前まで		なし(無袋)
			収穫45日前まで	3回以内	かき
			収穫21日前まで	2回以内	おうとう
		収穫14日前まで	うめ		
		500~1000倍	-	6回以内	樹木類
ディブテレックス乳剤	DEP	1500倍	-	-	樹木類(さんごじゅを除く)
ダイアジノン水和剤 34	ダイアジノン	1000~1500倍	発生初期	4回以内	樹木類
			収穫14日前まで	2回以内	おうとう
				6回以内	西洋なし 日本なし
			収穫30日前まで	4回以内	りんご
		収穫21日前まで	2回以内	すもも 小粒核果類(すもも除く)	
		1000倍	収穫45日前まで	4回以内	かき
トアロー水和剤 CT	BT	1000~2000倍	発生初期	-	樹木類
アグロスリン水和剤	シハルメリン	1000~2000倍	収穫前日まで	3回以内	クルミ

長野県病害虫防除所
 所長：飯島章彦
 担当：武井正明
 TEL：026-248-6471 (直通)
 FAX：026-248-6473
 E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp